



大容量交換機の認識回路による選択

4段接続と呼ばれる大容量のクロスバ交換機では、回線数によって装置間の接続が異なり、制御上自由な接続を行なうことが困難とされていた。このため、適用回線範囲が小さくなり、ある回線数では非常に多くの装置を必要とした。

たとえば、1000回線、2000回線、5000回線、10000回線の装置はうまく行くが、その間の回線、たとえば6000回線の交換局を作ろうとすると、10000回線の装置を作らねばならないというような場合が多かった。

この不経済を救ったのが、本発明であり、ますます広い適用領域を要求されるクロスバ交換機においてたいへん有効な技術である。

本発明は、共通制御方式クロスバ交換機の制御方法に関するもので、加入者回線を収容するラインリンクフレームと中継線を収容するトランクリンクフレーム間のジャンクタの接続パタンの認識回路を設け、この認識回路によって、装置間の自由な接続に対する制御を可能にさせるものである。

これによって、いかなる装置数においても、常に最良の接続を容易に行なうことができるようになり、装置数を著るしく減少させることができる。

本発明は、昭和40年特許公告されたが、その新規性は、認識回路を設けることによって、使用可能な接続路を群単位で認別し、しかる後、群内において最適接続路を決定する点にある。

写真は、最近の共通制御式クロスバ自動交換機の架群である。